

小学六年

国語

解答と解説

1

問一	i	
オ	21	
ii		
ア	22	
iii		
イ	23	
問二	I	
エ	24	(解答)
II		
ウ		

問三	海野いずみ	25
問四	イ	26
問五	夢をか なえ	27

問六	エ	28
問七	㊦	
エ	29	
㊨		
イ	30	
問八	ウ	31

問九			
な	か	い	思
や	な	自	い
り	い	分	ど
方	」	の	お
が	と	未	り
あ	決	来	に
る	め	に	な
と	つ	つ	ら
考	け	い	な
え	ず	て	い
る	に	、	か
生	い	「	も
き	ろ	こ	し
方	い	れ	れ
。	ろ	し	な

32
33
34
35

問十	ア	
イ		
ウ	(解答)	
エ		
オ		
問十一	ウ	36
		37

		5	4	3			2
⑥	①	①	①	①	問五	問三	問一
系 統	拳 式	ク	無 事	ウ	ウ	1	i
65	60	55	50	(完 答) (順不問)	才	ウ	他
⑦	②	②	②	45	問六	2	者
君 臨	絶 賛	工	静 養	46	イ	ア	に
66	61	56	51	問七	建	3	否
⑧	③	③	③	47	設	工	定
研 究	展 示	才	手 段	51	的	問四	38
67	62	58	52	44	批	自	ii
⑨	④	④	④	47	判	業	ウ
服	祝 賀	ウ	実 直	48	問八	自	39
68	63	59	53	48	ウ	得	問二
⑩	⑤		⑤	49	問九	伊	取
慣	演 奏		風 潮	54	イ	れ	る
69	64		54	(配点)		は	ず
				① [問一] 各2点、[問七] 各3点、 [問九] 7点、他各5点 ② [問三] 各2点、他各5点 ③④⑤ 各2点		40	計150点

【解説】

1 安田夏菜の「おれたちはギロンする」(静山社)から出題しました。

ふとしたきつかけで出会った議論好きの芽衣と「おれ」が、「夢は持つべきか、持たざるべきか」について議論する場面です。それぞれの主張する内容をおさえながら読み進めましょう。

問一 B1 関係づけ 比較

適当な副詞を空らんに入れる問題です。

i 「まずは、わたしの意見を述べます」と言った芽衣は、「目を輝かせ」、「いつにもまして自信ありげな態度」です。以上のことから、オ「らんらんと」が入ります。

ii 「おれ」から、プロ野球選手になる夢が破れて傷ついた兄の話聞いた芽衣は、夢を持つことについて自分には見えていないマイナスの部分があったことに気づかされています。それまでの自信たっぷりな態度から、勢いが失われている様子が見て取れます。このことから、ア「ぼつんと」が入りません。

iii 芽衣が直前で「そのためにはもつと覚悟を持たなくちゃって、気合が入った」と発言し、口元を引き結んでいることから、イ「きゅつと」が入ります。

問二 A2 知識 比較

① ①にあてはまる言葉は、「おれ」に「おれのことを言われているようだ」と感じさせる内容になっているはずですが。芽衣の言うように、自分がダラダラとすごしてしまい、母親に注意されてばかりであることを思い出していることから、自分の

悪いところをずばりと指摘されているように感じており、「耳が痛い」があてはまります。

問三 B1 置換

「写真の中の母親」は芽衣の母親です。本文中にフルネームで出てくる場面はありませんが、——線⑪の後に芽衣の父親である「海野先生」が出てきて、「芽衣のママの写真」に「なあ、いずみさん」と話しかけている場面があります。ここから、芽衣の母親の名前は「海野いずみ」であることがわかります。

問四 B1 理由 比較

——線④の「へー」の後に、「気のぬけたような返事をしたのは、興味がないからじゃない」とあります。その後に続く部分を確認すると、「今芽衣が言ったことを、おれはすでによく知っているんだ。だつて兄ちゃんから、さんざん聞かされたことだから」とあり、芽衣の話していることは以前兄から聞いたことのある内容ばかりで、「おれ」にとつては以前兄から聞いたことのある話であることがわかります。したがって、イが正解となります。ア「関心が持てなかった」、ウ「複雑で難しすぎて」、エ「どうやって反論しようかと考えていた」がそれぞれ誤っています。

問五 B1 具体化 関係づけ

——線⑤の直前で、芽衣は「だから、夢を持ってそれに向かつてがんばることが大切なんだと思う」と述べています。このことは、◎の文の最後にほぼ同じ形で書かれています。その前にある「成果を出した実例」はイチロー選手、大谷選手のことです、

その話をたどっていくと、本文冒頭で芽衣が意見を述べ始めたところで「成長」「努力」の話をしていることがわかります。ここでの発言と字数、前後とのつながりから、「夢をかなえたい」という思いは、人の成長につながる」が答えになります。※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問六 B1 具体化 比較

「おれ」の話を聞いた芽衣が最終的にどのように考えたかを問われています。まずは「おれ」の話が終わるところまで読み進め、それに対して芽衣が反応を示しているところを探しましょう。4ページ上段で芽衣は「わたしは夢を捨てたりしないけれど、そのためにはもっと覚悟を持たなくちゃって、気が合が入った」と発言しています。ここから、エが正解であることがわかります。ア「夢を持つことの素敵な面を強調しすぎるのはやめておくべきだった」、イ「もう一度夢を持つように説得したい」、ウ「自分が夢を追い求めること自体をもう一度見つめ直す必要があるのではないか」がそれぞれ誤っています。

問七 A2 知識 比較

語句の意味を答える問題です。まずは辞書の意味を知っていることが重要ですが、辞書の意味を意識したうえで、その文脈ではどのような意味になっているか、ということも合わせて考えましょう。

⑦ 「うながす」は漢字で「促す」と書き、この字を使って「促進」「促成」「催促」「督促」などの熟語が作れます。誰かに働きかけて何かをするように仕向ける、導く、という意味

の言葉です。したがって、エが正解となります。

⑪ 「ふいに」は漢字で「不意に」と書き、思いがけず急に何かが起こる様子を表す言葉です。したがって、イが正解となります。

問八 B1 関係づけ 比較

「おれ」の発言を受け、芽衣が「おとなって、だめだったと」のことは言わないよね、ひとことも」と言っていることに注目しましょう。⑧に入る「おれ」の発言を受けてこの発言をしていることから、ウが入ります。

問九 B2 具体化 推論

「柔軟な生き方」について説明する問題です。「柔軟」という言葉を「使わずに」という条件に注意しましょう。直前で芽衣が「なるほど」と発言していることに注目すると、その一つ前の「おれ」が発言している内容に対する同意であることがわかります。「兄ちゃん」に言われたことをもとに、「おれ」は「自分の思いどおりにならないことは、これからもきつと起きる」「こつちがだめなら、あつちがあるさ。あつちがだめなら、そつちがあるさ」みたいな、やわらかーい気持ちでいたほうがいい」と言っています。ここから、「柔軟な生き方」とは「思いどおりにならない可能性がある未来」について、「一つに決めつけずにいろいろなやり方があると考える」ことであるとわかります。

※設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある

場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点2点とします。

問十 **B2** 具体化 比較

「おれ」が「夢」についてどのようにとらえているかは、「おれ」自身の発言をたどっていくことで明らかになります。「夢」について述べているところを一つ一つおさえていきましよう。まず、2ページ下段で「夢は大きければ大きいほど、かなう率が低くなる」「かなえたいって気持ちがあつて強いと、だめだったときショックが大きいし心も傷つく」と発言しています。これはオの内容と合っています。次に3ページ上段では、それまでの夢に対するいろいろなとらえ方の話をふまえ「正直言つて、おれ、よくわかんないんだよね」と言っており、これはエの内容と合っています。最後に、3ページ下段で「夢がなくなつて、兄ちゃんは兄ちゃんだよ」と述べており、これはウの内容と合っています。以上のことから、ウ・エ・オの三つが正解となります。ア「かなつた時の見返りを考えると」、イ「自分の生き方をせめてしまふ」がそれぞれ誤っています。

問十一 **B2** 具体化 比較

登場人物の人物像・性格をつかむには、発言（何を言つたか）と行動（何をしたか）を一つずついねいに確認していきましよう。

最初の場面では自信満々に持論を語っていた芽衣でしたが、「おれ」から「兄ちゃん」の体験談を聞き、一部考えを改めた様子が描かれています。自分とは異なる意見に対して感情的に反論するのではなく、冷静に受け止めて、取り入れるべきだと

判断したところはためらわずに取り入れる、聞く耳のある様子があるかえます。したがって、ウが正解となります。ア「立場の違う人の意見を積極的に取り込み」、イ「他人の意見には一切振り回されない」、エ「自分の意見を曲げてでも」がそれぞれ誤っています。

2 竹端寛『福祉は誰のため？』（筑摩書房）から出題しました。

人に迷惑をかけることを極端にいやがる今の若者に焦点を当て、「自己責任」とはどういうものであり、またどうあるべきものであるかということについて他者の議論を引用しつつ筆者の意見を述べている文章です。

問一

i **B1** 置換

「迷惑をかけるな憲法」を遵守している、という表現を言い換えたものを探す問題です。字数にこだわらず内容で追いかけると、二行後に「『迷惑をかけてはならない』という規範に子どもが過度に縛られ、他人の目に怯えていれば」という表現が見つかります。さらに次の段落で、この内容は「他者に否定的に評価・査定されないように他人の目を内面化する」と言い換えられています。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

ii **B1** 具体化 比較

他者に迷惑をかけてはならないという考えに必要以上に縛られる様子として適当なものを選びます。ア・エは7ページ上段

で筆者が自分の娘に「しないように」伝えている内容であり、ここで求められている内容とは違う内容です。また、イは他人の行動が自分に影響を与えることを想定した話であり、これもここで求める内容ではありません。

問二 **B1** 具体化 関係づけ

——線②に続く部分で、筆者は家族のケアが必要で「自分の行動」に制限が加わり、責任を負わなければならないような結果が発生してしまう例を挙げています。さらに7ページ下段でこの内容をまとめ、「取れるはずのない責任」を「自己責任」として抱え込んでいる人が多いのではないかと、という疑問を投げかけています。したがって、「解像度を上げ」とは、これらの状況を正しく把握し理解したうえでもう一度「自己責任」について考えてみる、ということを指すことがわかります。以上のことから、「取れるはずのない責任」が答えとなります。※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問三 **B1** 関係づけ 比較

空らんには当てはまる接続詞を考える問題です。前後関係に着目し、それぞれのつながり方をおさえながら考えていきましょう。《1》の前には、「解像度を上げて検討する必要がある」あることを述べており、この後にどのような場合の「自己責任」についての話か、具体的な話が続いています。抽象的な内容に対する具体的な例が続いていることから、「例えば」が入ります。

《2》の前には、後ろ向き責任と前向き責任では責任を引き受ける時間が異なることが書かれており、後には「福祉現場で問題になる自己責任論」に関する内容が続いています。前の内容を受けて順当に後の内容が続いていることから、「ア」が入ります。

《3》の前には、「あなたのやっていることはダメだ」という言い方が「過去や現在に対する否定や非難」であることが書かれています。これに対して後には「あなたのやっていることは、こんな風に変えた方がよいのではないかと」という言い方が「未来に向けて『別の可能性を想像する』批判」であることが説明されています。前後が反対の内容になっていることから、「エ」が入ります。

問四 **A2** 知識 関係づけ

一つ目の——線③の後には「現に苦しい状況や困っている状態にある人に対して、見放す視線」とあります。また、二つ目の——線③の前には「自堕落な生活」「努力不足」などの言葉が並んでいます。以上のことから、自分のしたことへの報いを自分で受ける、という意味の「自業自得」が入ります。「業」の「ごう」という読みは小学配当外ですが、類出の四字熟語ですから、ぜひ読めるようにしておきましょう。

問五 **B2** 理由 比較

苦しい状況や困っている状況にある人に対して「後ろ向き責任」を問うのではなく、「前向き責任」を考えて今後の行動をどう変えていくかを考えるべきだ、という直前の議論に対して、

「論理的には分かるけど、モヤモヤする」と感じる人がいる理由を問う問題です。8ページ下段の後半で、筆者がそのように感じる人がいる理由を考察しています。二つ選ぶ、という条件から、その内容が二つに分かれているのだらうと推測し、あてはまるものを探しましょう。一つ目は「おそらく多くの人にとって」から始まる部分にある、「後ろ向き責任」に関する認識が骨の髄まで染みついていてから、という理由です。もう一つは「さらに言えば」の後、「そんな私自身の努力を否定され・台無しにされるようで辛い・ズルい、という、感情的反発」である、という理由です。並列を示す表現に注目して探すと見つけやすいです。

問六 B1 具体化 比較

線⑤に続く部分には、「その人の生きるプロセスの中で、家族関係や生育環境との相互作用の中で、努力をしにくい状況や、健康に価値を見出せない状況に追い込まれてきた可能性が「あります」と説明されています。筆者はこの状況をその人のせいではなく、「社会構造や環境要因の抑圧を内面化している可能性」があると指摘しており、これらの結果責任が本人にないケースもあるということを強調しようとしていることがわかります。あくまで、本人に責任がある場合も、ない場合もあると考えていることがポイントです。以上のことから、イが正解となります。ア「原因は本人の怠けや甘えといったものにある」、ウ「家族関係や生育環境によって後からそういう性質が身につけてしまったのだと判断せざるを得ない」、エ「その人の生きてきたプロセスとはほぼ関係がない」がそれぞれ誤っています。

問七 B1 具体化 関係づけ

現状を変えるための方法として、筆者は9ページ下段で「その人に関わる他者が一緒に考えながら、『よい変化』という『別の可能性』を生み出すために、共にモヤモヤ画策してみる」とことを提案しています。その直後に、このやり方を「建設的批判」という言葉でまとめています。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問八 B1 関係づけ

抜けている文をもとの場所にもどす問題です。ヒントは抜けている文自体にあるので、指示語や接続語、キーワードに注目しながら、どのような内容が書かれた部分と抜けている文がつながるかを検討しましょう。必ず実際に文をもととして読み直し、前後の内容が問題なくつながるかどうかを確認しておくことも大切です。

「否定や非難」が話題に上がっているのは、9ページより後の部分です。それをふまえ、「であれば」とあることから「否定や非難をしても、先に進め」ないと考える理由が書かれている部分を探すと、「ウ」の直前に、好ましくない結果が生じた原因が、本人の怠けや甘えである場合だけでなく、社会構造や環境要因によるものである可能性があるということが書かれています。

問九 B2 抽象化 比較

本文の内容と合っている選択肢を答える問題です。本文のどの部分をもとに作られた選択肢かを考え、実際に本文にもどつ

て照らし合わせ、正誤を判断しましょう。

8ページ上段に書かれているように、福祉の現場では「後ろ向き責任」を問う形で「自己責任論」が展開されます。しかし、筆者はこれに疑問を投げかけており、問うべきなのは「後ろ向き責任」ではなく、「前向き責任」であることを述べています。このことは、玉手慎太郎たまてしんたろうさんの著書からの引用である。「自己責任論を否定しつつ自発的な行為変更こういへんこうを推奨すいしょうしていく」という表現にもよく表されています。したがって、イの内容は正しいです。

ア「弱い人に責任を負わせる点で問題のある考え方」、ウ「自分が置かれた状況の責任は自分で取る」、エ「物事の原因と結果の対応関係を可能な限り明らかにする」がそれぞれ誤っています。

3 **A1** **知識** **比較**

①～⑤の語について、類義語を語群から選んで漢字に書きなおす問題です。使われている漢字ごとの意味と熟語全体の意味、よくいっしょに使われる言葉や使う場面などについて、まとめて覚えておきましょう。

4 **A2** **知識** **関係づけ**

□にあてはまる言葉を選ぶ問題です。それぞれの言葉がどのような場面で使われる言葉なのかを考え、あてはめて読んで確認しておきましょう。